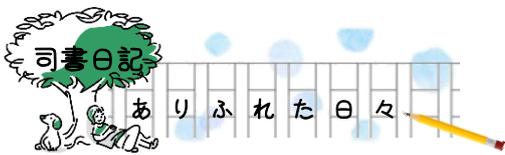


2月。日本では節分ですが、キリスト教のカトリック文化圏を中心に、カーニバル（謝肉祭）という行事が行われます。

今では宗教的な姿がないイベントや音楽を楽しんだり、観光になっている地域も多いようです。有名な“ブラジルのリオのカーニバル”は、ショーとして100万人もの観光客が訪れ、サンバのコンテストとしてもおなじみだそう。イタリアのヴェネツィアのカーニバル“は、中性ヨーロッパの衣装と仮面をつけた人々がパフォーマンスを行うミステリアスなイベントだそうです。いろいろな国々のカーニバル見てみたいです。ね。



古今東西の名著を詳しく掘り下げて読み解くという NHK の”100分 de 名著”という番組をご存じですか？

アニメ、コントなどから分かり易く解説。作家や舞台演出、大学教授など様々な人が、作者や時代背景、あらすじだけではなく、視点を変え他の登場人物からみる、自分なりの主人公は誰か？など色々な角度から考察を深めていく番組です。ここで『竹取物語』の視点が興味深かったので紹介したいと思います。日本最古の物語として、『かぐや姫』の原作として、広く知られていますね。

あらすじ 竹取の翁とおばあさんは、竹の中に女の子を見つけ一緒に暮らしました。美しいかぐや姫を妻にしたい5人が現れますが、難題を出され上手くいきません。帝もかぐや姫に好意を持ち、手紙のやりとりをします。やがて、かぐや姫は故郷の月に帰っていくことになります。

深掘りポイント

・よくよく考えると、月と地球を行き来する設定なんて、日本最古の物語はいわゆるSF小説と言えるのではないかな。宇宙どころか月とは何か説明もできない時代に地球とは違う世界を想像したことは、ある意味ハリーポッターを超える発想力なのではないかな。

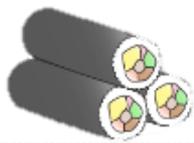
・「どうして結婚しないといけないのですか？」と、かぐや姫は、当時の結婚観（親が勧める相手との結婚に従うのが当たり前）に一人抗い、結婚とは自分の意志によるものと考えます。1200年前にかぐや姫のような女性を物語に登場させたことは、いまなら炎上必至。思い切った設定だと思います。

ムネアツポイント

月の世界は清らかで、何も悩まずにいられるにも関わらず、かぐや姫は故郷の月へと旅立つ際には戸惑い、深く悲しみます。なぜでしょうか？ ささやかな出来事にさえ心が動かされる地球での生活に対し、月では、平穏無事で感情の起伏すら起こらない物足りない生活が待っていたからです。地球で様々な経験を積むなかで、この世界は悩みや煩わしいことや辛いことが多いけれど、だからこそ愛しい世界なのだと気づく。このせつなさが良きです。



かぐや姫になって、自分を置き換えてみることもできますね。“世界で当たり前とされているものが全部ではない”“既存の考え方から自分を解放してくれる力になる”自分の世界を新しい目で捉えなおすためのトレーニングになる”。これは、読書すべてにおいても押しポイントの一つだと、私も思います。(大原)



新着図書ピックアップ



『受験生は謎解きに向かない』

ホリー・ジャクソン【著】服部京子【訳】創元推理文庫

『自由研究には向かない殺人』という既刊の3部作へ続く話として、発表された本。3部作はミステリーの様々な賞を受賞したり、イギリスではドラマ化されるということなので興味がわき読んでみました。主人公はピップという勤の働く冷静な女子高生。友人同士6人である家に集まり、時代設定や役柄を与えられ役になり切った服装で集まり犯人当てのゲームが始まります。架空の事件ながら、役に入り込んで演じる高校生達の姿や、どこか冷めた気持ちもありながら謎解きにキレを感じさせ考えをめぐらせていく主人公の思考など非常に面白かったです。3部作も図書館にありますよ。(大原)



『奔流の海』

伊岡 瞬【著】文藝春秋



作者が旅先で見つけた、中学3年生の男子が制服姿のままいなくなったという色褪せた行方不明者の張り紙。この子は一体どんな子だったのだろうという気持ちから、この物語はうまれたそうです。

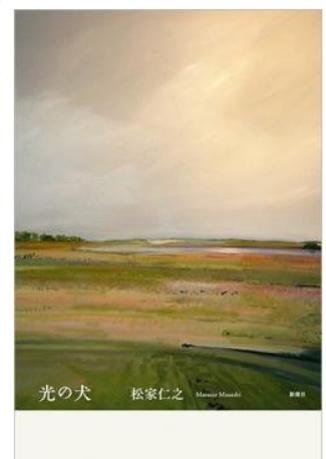
主人公は二人「坂井裕二」と「清田千遥」。20年以上前の台風の場面から、物語は始まり、それぞれの現在と過去を行ったり来たりで進みます。途中、虐待等つらい場面はありますが、ミステリー要素もあり、最後は作者にしてはめずらしい(?)ハッピーエンド。やさしい作品です。(矢田)

『光の犬』

松家 仁之【著】新潮社

「添島始は消失点を背負っていた」という書き出しに、えっ!?消失点って何?と思い読み始めました。北海道枝留を舞台に、三世代10名の家族のhistory。

家族一人一人に焦点を当て時代を交錯させながら物語が進んでいく構成になっています。どの登場人物の生き様も瑞々しく描かれ、自分や身近な人の人生と重なる部分もあり共感できました。特に宇宙物理学に傾倒した長女歩が印象に残ったかな。終始静謐で美しい言葉で綴られ、読み終わったあとしばらくは言葉を失くしてました。大好きな作家の1人です。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで!」と思う本を選びすぐってお届けします。上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



読みかけの本がカバンにあるのをカッコいいと思っている

藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.67

『やる気 1%ごはん テキトーでも美味しくつくれる悶絶レシピ 500』 まるみキッチン【著】

2月の開館予定

2月		
1	木	8:10-18:50
2	金	8:10-18:50
3	土	休館
4	日	休館
5	月	8:10-18:50
6	火	8:10-18:50
7	水	8:10-18:50
8	木	8:10-18:50
9	金	8:10-18:50
10	土	休館
11	日	休館
12	月	休館
13	火	8:10-18:50
14	水	8:10-18:50
15	木	8:10-18:50
16	金	8:10-18:50
17	土	休館
18	日	休館
19	月	8:10-18:50
20	火	8:10-18:50
21	水	8:10-18:50
22	木	8:10-18:50
23	金	休館
24	土	休館
25	日	休館
26	月	8:10-18:50
27	火	8:10-18:50
28	水	8:10-18:50
29	木	休館/館内整理

本屋大賞 2024 のノミネート作品が発表されましたね。

次月号では、ノミネート作品から私の直感で大賞と獲りそうな作品を紹介したいと思います(^^)

あと、まだ先の催しになりますが、3月に入りましたら昨年に引き続き「本屋大賞 2024 予想会」を開催したいと思います！見事大賞作品を当てた生徒には…。良いことがあるかもしれません♪みなさん本屋大賞 2024 予想会に参加してくださいね♪

さて、今回紹介する本は、来年度から新生活を迎える高校3年生にとって耳寄り情報になるかもしれない本です。簡単に短時間でおいしい料理が作れるレシピが盛り沢山！4月から一人暮らしを始める方も多いのではないのでしょうか？どうしても新生活は何かと忙しく、自炊に手が回らずコンビニやファストフード店で食事を済ましてしまったり…決して体に良い食べ物とは言い難い食生活が続いてしまうことが多いように感じます。

「医食同源」という言葉があります。病気を治療するのも日常の食事をするのも、ともに生命を養い健康を保つためには欠くことができないもので、源は同じだという考えです。古くから中国にある、体によい食材を日常的に食べて健康を保てば、特に薬など必要としないという薬食同源の考えをもとにした造語とも言われています。食事って大切なんですよ。栄養バランスを考えると大変なんですよ。

これまで当たり前のように自宅に帰ると温かい料理が用意されていたことが、独り立ちすると当たり前でなくなります。その時、ようやく親のありがたみを感じるわけです。私の場合、体感してようやく親のありがたみを感じました。みなさんも遅かれ早かれ親元を離れ生活を送る日が訪れます。

いつか、料理をしなければならない日が来るわけです。男だから料理は…って世の中ではありません。

第10回料理レシピ本対象【料理部門】大賞受賞作品でもある本書には、500ものレシピが掲載されています。この1冊あれば1年間メニューが被ることなく料理を作ることができますよ。あまり料理をしない私でも、レシピを見ながら上手に作ることができました(^^)/あと1か月少々で修了式を迎えます。本音を言えない年頃かもしれませんが、たまには親に感謝の言葉を伝えてみてはいかがでしょうか。伝えられない方は、この料理本で親に料理を振る舞ってみてはいかがでしょうか。

感謝することは大切なことですよ。



『やる気 1%ごはん テキトーでも美味しくつくれる悶絶レシピ 500』

まるみキッチン【著】 KADOKAWA



第65回 平木琴美先生おすすめ

『心が奮い立つ！トップアスリートメンタル術』 児玉光雄【著】

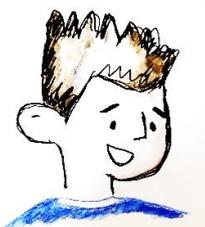
日本のトップアスリートたちから出た言葉の一つ一つは、血のにじむような努力をしたからこそ心に響く言葉となって私たちのもとに届いているのだと、改めて感じることもできる一冊です。この中のどれか一つでもピピッとくるものがあれば、皆さんにとってその言葉がバイブルとなり、モチベーションアップにつながると思います。ぜひ手に取って読んでみてください！

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどなたに渡るかな？



受験シーズン真っただ中ですが、早いもので卒業式まで一か月になってしまいました。毎年この時期になると図書館に来てくれた皆さんとの楽しい会話や好きな本で盛り上がったことなんか、ほつほつ思い出します。

そんな今月の特集棚は「The 卒業」。たくさんの先生からの「卒業するみなさんに贈る1冊」と「メッセージ」を集めた卒業生必見のコーナー（EMC2F）です。（先生の似顔絵、一生懸命書かせていただきました。どなたかわかりますか。クレーム等は犬塚まで。）



『鎌倉幕府と室町幕府 最新研究でわかった実像』 著者名：山田 徹

日本史Bを受講していた皆さんには切っても切り離せない鎌倉幕府と室町幕府のお話です。源〇〇、北条〇〇、足利〇〇と「あーもう勘弁して！！」と聞こえてきそうな題名ですが、これがなかなか面白い。中身を書いてしまうと何も面白くありませんので、後は読んでからの楽しみという事で。最新の鎌倉、室町が見えてきます！



『オーデュボンの祈り』 著者名：伊坂幸太郎

小学校卒業以降あまり小説を読まなくなっていた川端青年が知人の紹介により久しぶりに読んだ小説。言葉だけでここまで情景描写や人物設計がなされるのかと感嘆した。また、「生きている」「思考する」とは何であるのかを考えさせられる内容。読むのが止まらず寝ずに読破した記憶がある。「死神の精度」もオススメ。

＼カウンター前で展示中／

同時開催

本の中にも推しがいる。
＼ 仰げば尊しわが推しの本 ＼

図書館からのお知らせ

●卒業される皆さんの本の返却期限について

最終返却期限は 2月15日（木）です。ただし受験等により図書の貸出を希望する人はカウンターで利用期間の延長手続きをしてください。

●開館時間の延長（～18：50）は2月も継続中です。

編集後記

卒業生のみなさん、EMCをいっぱい利用してくれてありがとう。たまにはEMCに遊びに来て下さいね。（犬塚）

